Interview

SHINE報（シャイン）

vol. 1

2022年1月11日発行

代表取締役社長 **中島（なかしま） 弘喜（ひろき）**

株式会社中島製作所の代表取締役社長として、会社を牽引する中島弘喜。「下請けからメーカーに」という志を胸に走り続けてきたが、すべてが順風満帆に進んだわけでは決してなかった。紆余曲折を経て成功した、自社開発製品「ミールシャトル」の顛末を振り返る。

アイデア豊富に遊んだ子ども時代

英語に習字、家庭教師による指導、体育教室にスイミング……幼い頃から数多くの習い事を経験してきた中島。忙しい毎日の中、その合間を縫うように友人たちと遊んでいた記憶がある。中でも得意だったのは、慣れ親しんだ遊びに新しいルールをつけ加えること。体格の良い子どももいれば、小柄な子どももいて、足の速い子どももいれば、そうではない子どももいる。中島の作り出すルールは公平で、全員が遊びを心から楽しめるようなものだった。負けた人には罰ゲームが課されることもあり、ハラハラしながら全力で遊んだのをよく覚えている。

家業に加わるまで

さてその頃、中島の兄は県内有数の進学校・佐賀西高等学校に通っていた。充実した青春を送る兄の姿を見るうちに、「自分もこの高校に通いたい」と思うようになり、中学2年生の後半頃から本格的に勉強に励むようになった。自分に合った塾に通いはじめたことにより、勉強をすること自体もどんどん楽しくなっていったという。こうして見事、兄と同じ佐賀西高等学校に合格したのだった。希望の高校に入学してからは、友人たちとの自由な高校生活を満喫し、勉強に励んだ。

月日は流れ、大学に進学。将来について明確なイメージをもつことはできなかったが、父からの打診もあり、中島製作所への入社を決意。卒業すると、取引先で1年間修業をして社会人としての基礎を学んだ後、家業の一員として新たな一歩を踏み出した。

チャンスをつかむために

入社当初から中島の胸にあったのは、「中島製作所を、下請けからメーカーに成長させたい」との強い思いだ。そんな折、大学教授を通して、とある大手企業から依頼を受ける。

「医療介護施設で提供される食事のクオリティーを上げ、人手不足を解消できるような製品を開発してほしい」。

当時、食事の再加熱には主に温風が使用されていたが、食材が乾燥してしまい、味が落ちてしまうのが難点だった。そこで着目されたのがマイクロ波である。

指定された開発期間はわずか1年。マイクロ波の知識も、設計技術もほとんどゼロの状態だ。それでも、目の前のチャンスを逃すわけにはいかない。2～3人しかいない開発チームの先頭に立ち、挑戦に向けて乗り出した中島。しかし、待ち受けていた道のりは険しいものだった。

開発はしたものの……

マイクロ波を採用した加熱装置は、業界初の試みだった。そこで、マイクロ波の専門家を探して指導を受け、知識を身につけた。自らの全エネルギーを開発に注ぎ、ついに再加熱カートが完成。病院への納品を終え、ほっと胸を撫でおろしたのも束の間、すぐに問題が発生する。クレームが続出してしまったのだ。

「こんな食事はとても食べられない！　一体どうなっているんだ！」

カラカラに乾燥した食材と、ゴムのように固くなった肉。容器のフタを開けた途端に煙や火が出るといったトラブルも多発したという。中島は真っ青になった。病院で提供される食事は、患者の病状などに合わせてボリュームや内容が多種多様。試作段階ではそれらに細かく対応できる機能を設定したが、操作が煩雑になってしまい使ってもらえなかった。結果として、特に少量の食事で過加熱が起こってしまい、乾燥や発煙、発火につながったのだ。

その日から、中島はトラブル対応に奔走した。病院の近くにマンスリーマンションを借り、毎朝6時から食事のチェック、顧客からの電話クレームは多い日で数十件。謝罪対応とリコール対応。苦労の連続であったが数か月間真摯な対応を続けたことにより、幸いにもお客様の理解を得られた。とはいえ、製作した50台のうち30台は、使われぬまま処分する運びに。全力を注いで開発した製品が日の目を見ないのはもちろん、お客様に満足してもらえなかったことが何よりも心苦しかった。開発にあたって多くの力を貸してくれた従業員たちにも申しわけなく、胸が潰れるような思いがしたという。

しかし、ここで諦めてしまってはすべての人たちの努力が水の泡となってしまう。残念ながら使用されることなく処分されてしまった30台のためにも、失敗を活かし製品改良に挑むことを決めた。中島の新たな挑戦がここからはじまる。

（後編に続く）

企業情報

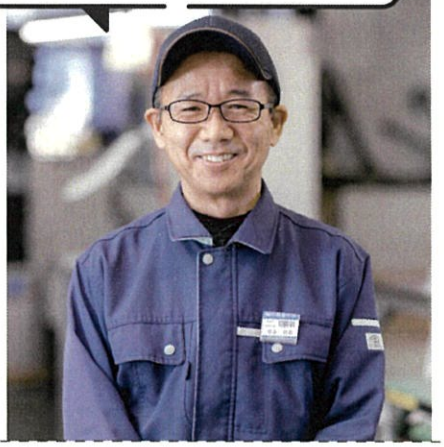
設　　立：1961年8月
売 上 高：15億円

※2020年3月時点

プロフェッショナル 仕事の流儀

中島製作所の一流社員に密着し、新人時代や困難な仕事の乗り越え方を掘り下げます。新入社員からの質問にも回答していますので、ぜひ業務の参考にしてみてくださいね。

18歳で入社して、もうすぐ勤続40年です。ものづくりが大好きなので、この仕事以外考えられません。



製造課 機械グループ
製造課長代理 垣永（かきなが） 信彦（のぶひこ）さん

業務内容

機械の生産管理や納期の調整を行っています。マシニングセンタや旋盤を扱っています。

マイルーティン

毎朝出勤時にパソコンをチェックし、スケジュールや納期の確認をしています。

頭が働くように朝食は必ず食べるようにしています！
白米と納豆、味噌汁が定番メニューです。

失敗経験は決して無駄じゃない

失敗を経験しておいたことがよかったと思っています。色々なことにチャレンジすることで、成功するときもあれば失敗してしまうときもあります。しかしその経験が大事です。新人の頃、確認ミスが原因で不具合を出してしまったことや、仕事に慣れてきた頃、横着をしてしまいミスに繋がってしまったことなどがありました。誰しも人間ですからミスや慣れによる気の緩みが出てしまうことはあります。しかし、一度失敗すると、次は同じミスをしないように気をつけるようになりますから、どんな経験も決して無駄ではなかったと思っています。

困難な仕事の乗り越え方

困難な仕事を行う時こそ、気力と体力を強く持つことが大切です。どんなに暗い夜でも、明けない夜はありません。思い詰めずに、前向きな姿勢でいることこそ困難を乗り越えるコツだと考えています。

若手社員へのメッセージ

笑顔を忘れないでください。覚えることがたくさんあって難しい顔になっていませんか？わからないことは何でも先輩たちに聞いてみましょう。明るく、元気に、笑顔でいることで仕事も楽しくなるはずです。

新入社員からの質問 Q&A QUESTION ANSWER

Q 垣永さんのストレス解消法はなんですか？

A ずばり「寝ること」です！ぐっすり寝ると忘れてしまうタイプなので、くよくよすることもありません。

Q 新入社員に求めるものはなんですか？

A 「ほう・れん・そう」をしっかり実践してください。失敗してしまっても正直に話すことが大切です。

Q この会社に入ってよかったことベスト3

A
- 1位 社員旅行でハワイやグアム、韓国に行ったこと。
- 2位 仕事上で様々な経験ができること。
- 3位 会社が大きくなっていく過程を見れたこと。

社内報がスタートします！

今月から中島製作所初の社内報「SHINE(シャイン)報」を創刊する運びとなりました！この社内報では、活躍している社員や若手社員の紹介、部署紹介、また、社員皆さんの思いを共有する社内コミュニケーションツールのひとつとして活用いただければと思っています。ぜひ毎月の発行を楽しみに、まずは手にとってご覧いただければと思います！

社内報発行の目的 コミュニケーションの活性化

SHINE(シャイン)報の意味 中島製作所で働いている輝く社員達をより多くの人に伝えるための社内報にしたいという思いを込めています。

＼巻頭インタビュー／

毎号2ページにわたり、活躍する社員にインタビューを実施。
記念すべき創刊号と第2号は中島社長に巻頭を飾っていただきました！

＼コンテンツ／

「プロフェッショナル仕事の流儀」「我ら〇〇部」「同世代トーク」「もっと知りたい〇〇さん」など、社員同士の理解が深まる内容を盛りだくさんでお届けします！

毎月1日と15日に発行

ぜひ毎月の発行をお楽しみに！
※創刊号のみ2号分をまとめて11日に発行しております。

＼私が社内報を担当します！／

製造課
板金③GL 石丸(いしまる) 真琴(まこと)さん

本日、社内報「SHINE(シャイン)報」の創刊号が発行されました！
今、会社が大きくなるにつれ従業員の数も増えてきています。そんな中、「あの人誰だっけ？」と人が増えることでつながりが希薄になることに不安を感じました。コロナ禍によってコミュニケーションの場が非常に少ない状態が続いています。自分のことを知ってもらい、相手のことを知るためには？と考えた結果、この社内報が1つのコミュニケーションの架け橋になればと思い、創刊することとなりました。
毎月2回この社内報にて従業員の皆さんに情報を発信していきたいと思います。ご愛読いただければ嬉しく思います。

「SHINE(シャイン)報」がWEBでも閲覧できます！

ウェブシステムでいつでもどこでも閲覧することができます。コメント、イイネ機能あり！ぜひアクセスしてみてください♪

アクセスはコチラから！▼
https://www.igrace.jp
ORコードはコチラ▶
※ID、Passwordは社内掲示板に掲載しております。

＼インタビューやアンケートへのご協力、どうぞよろしくお願いします！／